

## 高校古典教育における和歌の指導

—— 近現代短歌からのアプローチ 2 ——

中 川 眞 二

○高等学校では、教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向があり、授業改善に取り組む必要がある。また、文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること、多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること、国語の語彙の構造や特徴を理解すること、古典に対する学習意欲が低いことなどが課題となっている。

これは、次期学習指導要領策定に当たり発表された、「国語ワーキンググループにおける審議取りまとめ」の中の「現行学習指導要領の成果と課題」の一部である。この中でも「古典に対する学習意欲が低いこと」が挙げ

られているように、現在の高校教育において古典への関心の低さは大きな課題となっている。同様の内容は、同じく「国語ワーキンググループにおける審議取りまとめ」の中の「資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実」の「科目構成の見直し」においても、

古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらないことなどが課題として指摘されている<sup>(2)</sup>。

と、古典の学習に対して学習意欲が高まらないという課題が指摘されている。そして、その指導法についても、「指導においては、文語文法の指導を中心とするのでは

ないことに留意する必要がある。」と、文語文法の指導を中心とするのではない指導が奨励されている。これは、現在の「古典離れ」の原因が文法中心の授業にあるということを示していると同時に、高校での授業が古典の世界に到達できていないことを示唆しているのではないだろうか。つまり、古典世界のおもしろさに到達する前に、文法中心の授業によって「古典離れ」という現象を引き起こしてしまっているのである。

そのような課題について、以前筆者は、

現代文→古典

という指導の流れを提示した。<sup>(4)</sup> 具体的には、

近現代短歌→和歌→古文散文（物語・随筆等）

という近現代短歌からの授業展開が「古典離れ」の対策として有効な方便となるのではないかと考えたのである。拙稿においてすでに述べたことではあるが、和歌は「古典文学の中心になるもの」として、（中略）物語・日記・随筆・評論などへの影響は大きく、和歌への造詣を深めることで、他の古典文学に対するをも理解深めることに繋がるのである。つまり、「和歌」の学びを糸口にして古典への理解を深めることができるはずである。そして、その和歌学習の前段階として近現代短歌学習を位置

づけることは十分考えられる。『古今和歌集』仮名序にも、「やまとうたは、人の心を種として、万の言の葉とぞなれりける」とあるように、「和歌」は、「人の心を種」として、古来から紡がれてきた。そして、その「人の心」は科学技術や医学のように日々進歩するものではない。人を愛する気持ちや友や家族との別れを悲しむ気持ちは、科学技術のように積み重ねて進化していくものではなく、古来変わるものではないのである。当然文化的な土壌の相違はあるだろうが、五・七・五・七・七のリズムに乗せて表現される心情に根本的な違いはない。

本稿は、前稿において示した実践例の中から、具体的に「歌物語」作成を通じて短歌の作品世界に迫る取り組み例を示すとともに、古典教育における和歌の授業の例として、「百人一首」を通じて行った「表現」に関わる取り組みについて提示することを目的とするものである。短歌をもとにした「歌物語」の作成、翻案自体はしばしば行われる。前稿で提示した実践においても、作品そのものは例示しなかったがその短歌がどのような状況で詠じられたかということについて考え、その解釈をもとにしながら散文化していく、つまり「歌物語」の制作を試みた。生徒たちはこの作業を通して、短歌が日常の喜

怒哀樂を表現したものであることを実感することができ  
たはずである。そして、こうした「歌物語」への関心が、  
古典における和歌指導につながるのではないだろうか。  
短歌に対する苦手意識が小さくなった生徒たちにとって、  
短歌同様な「心を種として」詠まれた和歌の世界に  
も入りやすくなるはずである。

前稿で示した授業実践例では、

・ なにとなく君に待たるるこちして出でし花野の  
夕月夜かな  
(与謝野晶子)

・ 不来方のお城の草に寝ころびて  
空に吸はれし

十五の心  
(石川啄木)

・ 「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人  
のいるあたたかさ  
(俄 万智)

・ ありふれた歌詞が時々痛いほど胸を刺すのはなん  
でだろうね  
(加藤千恵)

・ 観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生  
(栗木京子)

・ ハロー 夜。ハロー 静かな霜柱。

ハロー カップヌードルの海老たち。

という六首の短歌の中から一首を選んで、次のプリント  
に答えるというものであった。

「歌物語を書こう」授業資料

プリントの短歌の中から一首選んで、その歌がどん  
な状況で読まれたのか考えて、物語（ストーリー）  
を作ってみよう。

◎設定と事件

A 選んだ和歌

B 和歌が詠まれた場面設定（時・場所・登場人物な  
ど）

C ストーリー展開  
D 和歌が詠まれた場面

この課題に対して、

A ありふれた歌詞が時々痛いほど胸を刺すのはなん

でだろうね

B 放課後の学校からの帰り道。

登場人物：高校生の女の子二人（私と彼女）

C 私は彼女から好きな人がいると相談される。その好きな人は自分の好きな人と同じだった。彼女と別れて少し回り道をしながら帰っている。

D 少し回り道をして帰っているとどこからともなく歌が聞こえてきた。その曲が今の自分と少し重なって胸に響いてくる。

と解答した生徒が作成した「歌物語」が以下のものである。  
(5)

世界は恋に落ちている

今日こそ言おうと思った。「私もね、実は同じ人が好きなんだ。」

そう、あれはちょうど一週間前の帰り道だった。いつも通り一番仲のいい友達と帰っていた時のことだ。いきなり友達が「私ね、彼のこと好きなんだよね」とつぶやくように言った。彼というのは、私たちと同じクラスの人気者の男の子のことだ。バスケ

部のエースで、男女ともに彼にアコがれている子が多い。最近よく話題に出てくるので予感していた。嬉しそうに「応援してね」という彼女に私は、ただうなずくことしかできなかった。

彼女が自分のマンションに入ってしまった後、私は一人公園に寄ってボートとしていた。

空を見上げるとオレンジ色になっていて、少し肌寒くなっていた。

これからクリスマス、誕生日とたくさんイベントがある。それを彼の横で二人で過ごしたい。色々な想像が頭に浮かぶ。しかし、それと同時に彼女の幸せそうなあの顔が頭に焼き付いて離れない。私は彼女みたいに自分の気持ちを正直に言うことができない。本当に弱虫だと思った。もし私が彼女に先に話していたら彼女に気兼ねなく堂々とアピールできたのかなとか嫌なことばかり考えてしまう。

ここで悩んでいたってしかたがない。帰ろうと思つて歩き始めるとどこからともなく曲が聞こえてきた。最近テレビで聞いた気がする。ああ、そうだ。

「世界は恋に落ちている」とかそんな題名だった気がする。普段なら気にもとめないのに、今日はどう

してだか心に突き刺さった。涙がこぼれそうになつてとつさに上を向いて瞬きをした。彼女といつか同じ人が好きだったと笑い会える日が来るといいなと思つた。まずは彼女にも自分にも正直になろうと思つた。時間はかかるかもしれないけれど絶対に言う<sup>(6)</sup>と心に誓つた。

この曲を早速携帯にダウンロードして、イヤホン<sup>(7)</sup>を耳に入れた。イヤホンを通して流れる音をお守り代わりに少しずつ家までの歩みを早めた。

この生徒は、「ありふれた歌詞が時々痛いほど胸を刺すのはなんでだろうね」という短歌を詠んだのは、友だちから自分と同じ人を好きだと告白されて悩み、葛藤している女子高校生だと設定して物語を展開させている。友だちには何も言い出せず、あれこれと思い悩んでいる彼女の耳に、普段なら聞き過<sup>(8)</sup>してしまふ曲の歌詞が飛びこんでくる。この解釈が、実際にその短歌が詠まれた背景と一致するとは限らない。しかし、短歌が、どのような場面、どのような展開の中で詠まれたのかを考えることを通して、生徒たちが作品世界に迫ることが可能であるし、この作業によって、短歌への理解も深まるので

はないだろうか。併せて、先に挙げた「国語ワーキンググループにおける審議取りまとめ」の中の「育成を目指す資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について」において、「小・中・高等学校を通じて育成を目指す資質・能力の整理と、教科等目標の在り方」として、小学校・中学校・高等学校すべての「教育目標」に挙げられている、

創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を豊かにし、多様な他者や社会との関わりの中で、言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにする<sup>(9)</sup>か。

という課題を克服する端緒にもなるはずである。対象について、より深く考え感性を働かせ、想像の翼を広げることで作品のもつ世界に近づくとともに、自分のことばで思いを表現する訓練にもなるのではなからうか。

では、古文の和歌の授業についてはどうであらう。古文に抵抗感をもたずに、現代短歌と同様、和歌を身近に感じ、感性を働かせながら、作品世界に迫る効果的な方法はないのだろうか。そういったことを念頭に置いて、高校二年生（十九名・男子九名・女子十名）の講座を対象として「百人一首」を教材とした授業を行った。その際、

以下のような課題プリントを配布した。

「百人一首」(失恋編) 授業資料

次のA～Eの和歌の中から、あなたが好きな和歌を一首選び、あとの①～④の問いに答えなさい。

A あふことの 絶えてしなくば なかなか

人をも身をも うらみざらまし

(中納言朝忠)

B 風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ

くだけてものを 思ふころかな (源 重之)

C あらざらむ この世のほかの 思ひでに

今ひとたびの あふこともがな (和泉式部)

D 嘆きつつ ひとり寝る夜の 明くる間は

いかに久しき ものとかは知る

(右大将道綱母)

E うらみわび ほさぬ袖だに あるものを

恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ (相 模)

① 選んだ和歌

② 現代語訳

③ どのようなことに心を動かされて作者はこの和歌を詠んだと思いますか。(鑑賞)

④ この和歌のどのような点がすばらしいと思うかを八十字程度で述べてください。(理由)

今回の授業では、「恋」、特に「失恋」をテーマとして、「百人一首」に収められている四十首以上の恋歌の中から、性別や内容に配慮しながら、五首の和歌を選択した。「恋」をテーマにしたのは、生徒たちが共感しやすいのではないかと考えたからである。このプリントを用い、以下のような計画を立てて授業を行った。

第一時

(図書館) A～E、それぞれの和歌について現代語訳をし、どの和歌が最も好きかを選ぶ。なお、図書館の資料やインターネット等参考にした場合は、その資料名(サイト名・アドレス)を記す。その後、③の問いに答える。

第二時

(教室) グループワーク(一グループあたり三～五名)。同じ和歌を選んだ人同士がグループとなり、課題③についてそれぞれ発表し合い、意

見を共有しつつ、再び④の課題について考える。  
その上で、各グループが選択した和歌の魅力を  
発表し、それぞれの和歌の世界観を共有する。

### 第三時

（教室）プリントを用いて「『百人一首』と  
「[writer]」と題した説明を行う。その後、自分  
が選んだ和歌についてのツイート文を考える。

「第一時」の現代語訳について図書館の資料やPCを用  
いた調べ学習を認めたのは、まず第一に古典や和歌につ  
いてのハードルを下げるためであった。ただその際に指  
示をしたのは、調べたものをそのまま写すだけではなく、  
必ず辞書や文法書を用いた確認も行うということである。  
わかった気持ちになるのではなく、しっかりと知識によ  
る裏付けをすることの必要性を述べ、その後A―Eのそ  
れぞれについて品詞分類等の文法的な発問等を行うこと  
で、現代語訳の共有を行った。その上で、「第二時」を  
迎えることになった。その際に、③についての生徒たち  
の回答をいくつか挙げる。なお、Bを選択した生徒はい  
なかった。この点については教材選択の課題としたい。

③どのようなことに心を動かされて作者はこの和歌

を詠んだと思いますか。（鑑賞）

A・ずっと会っていた女性と会えなくなったつら  
さから（高二男子）

・自分が心から想っている人につれなくされた  
り、会う時間が少なくなったりして、やきも  
きしていること。（高二女子）

C・病気が重くなって、死を覚悟していたころ、  
病床から恋する人へ贈った歌で、死ぬ前にも  
う一度だけ会いたいという強い恋心から、こ  
の和歌を詠んだ。最後の時間を愛する人と一  
緒にいたいという思い。（高二女子）

D・いつもそばにいたはずの恋人がいなくなった  
寂しさから。（高二女子）

E・相手が自分を見てくれなくて恨めしいと思う  
が、悲しくて涙が止まらない。（高二女子）  
・恋に破れ、毎日泣いている。元恋人？元夫？  
のことを思って泣いているのではなく、相手  
に愛想をつかされてしまった自分を悔しく思

っている。(高二女子)

同じ和歌を選んだ生徒同士がグループになって、選んだ和歌の好きな点や感動の中心について、自分の考えを発表し、互いの意見を共有した。現代語訳に近いものもいくつか見られたが、この問いへの取り組みを通して、生徒たちは選択した和歌の作品世界や作者の心情について深く考えることができたのではなからうか。選択した和歌について、自分以外のひとの意見を聞いたうえで、④「この和歌のどのような点がすばらしいと思うかを八十字程度で述べてください。(理由)」という問いに取り組んだ。以下にその回答をいくつか示す。

④ この和歌のどのような点がすばらしいと思うかを八十字程度で述べてください。(理由)

A・ぼくが好きな女性ともう会えないとなったら、何とか会う方法を考えると思うが、作者はそこを割り切って、会えないけど、それならいっそ会えない方がよかつたところから、作者の愛の深さが伝わってくる点。(高二男子)

・「人をも身をもうらみざらまし」ということばから、もしも会うことがなかったならばと詠みながらも、本当はとも会いたい、つらくてたまらないという強い思いが伝わってくる点。(高二女子)

・むろん出会いは大切であるが、高校生というまだ結婚をあまり考えることがない私にとつては、思春期ならではのつらさがある点で心に響いた。事実、私自身もこのような思いに駆られたことがある。(高二女子)

・「あふ」と「うらむ」ということは、私のなかで正反対と言っても過言ではないのに、それが一つの歌のなかにあり、何ともいえない切ない気持ちを物語っている点。これから私が経験する思いのかなと思うから。(高二女子)

C・あまり技巧は使わずに純粹に作者の心情をストリートに表現しているため、女性のひとりの男性を強く想う気持ちや狂おしいほどの情念がわかりやすく伝わってくる点。(高二女子)



子)

・多くの和歌が比喩的に思いを描写しているが、この歌はストレートに思いを伝えており、死に際になって会いたいと思うくらい相手のことを愛している気持ちが美しく情熱的に表現されている点。(高二女子)

・三十一の文字の中に、自分の思いを強く述べているのがすばらしいと思った。現代の私たちでも同じ思いをすることがあると思う。五つの和歌のなかで、一番ストレートに思いを述べているように感じた。(高二女子)

E・和歌とかに詳しくない人でも一目見て恋に破れた人の気持ちを歌ったのだなと分かる点と、作者の気持ちがストレートに伝わってくる点。

(高二女子)

・「うらみわび」、「朽ち」、「惜し」といった心情が直接伝わるような表現がうまく調和して、相模の悲哀が伝わってくる点。(高二男子)

この問いは、八十字という字数で、その和歌を選んだ

理由を論理的に説明することを目的としている。八十字という少ない字数であるが、生徒たちは選択した和歌の世界やそこで表現された作者の心情について深く考え、その和歌のすばらしさについて論述した。Aに関しては「作者の愛の深さ」やことばの裏側に秘められた作者の「とても会いたい、つらくてたまらない」という思いを理由としている。Cについては、相手に対する「狂おしいほどの情念」やその愛情が「美しく情熱的に」ストレートに表現されている点が挙げられる。Eについても、作者の「悲哀」がストレートに詠まれている点などが述べられている。これらの記述を通して、生徒たちそれぞれが自分が選択した和歌に対する理解を深めていることがわかる。近代短歌ではなく、「百人一首」の和歌であっても、生徒たちは平安時代の作者の心情を理解しようとして取り組むことができるのである。

また、この授業にはもうひとつの目的がある。それは、和歌の世界を作者になったつもりでツイートするということである。当然、その和歌の内容を理解していないとツイートはできないことになる。「第三時」として行った授業として、最初に次に挙げるプリントを配布した。

「百人一首」とTwitter

・月見ればちぢにものこそ悲しけれわが身一つの秋にはあらねど（大江千里）

↓見上げれば何か切ない秋の夜の月の光も公共物で

・住の江の岸による波よるさへや夢の通ひ路人めよくらむ（藤原敏行朝臣）

↓逢いたいと願っていても 来ぬ君は夢の中でも人目を避ける

・奥山に紅葉踏みわけ鳴く鹿の声きく時ぞ秋は悲しき（猿丸大夫）

わが庵は都のたつみしかぞすむ世をうぢ山と人はいふなり（喜撰法師）

↓俺は野生の鹿が夜な夜なメスに求愛してる声聞いて「おいやめろ人寂しくなるだろうが」ってなるんだが RT…都から田舎に引越してきただけなのに「きつとあの人世間が嫌になってこんなとこに来たのよ」とか好き勝

手近所の人達に言われてる件

・天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも（阿倍仲麻呂）

↓月を眺めてたら故郷思い出してホームシックなう…

（Twitter「百人一首bot」より）<sup>(7)</sup>

プリントにも記したように「Twitterの「百人一首bot」を例示しながら、「百人一首」をツイートすることについて説明した。ツイートの内容は、現代語訳そのものではない五・七・五・七の型のツイートもあれば、作者の心情を話しことばでわかりやすく表現したものもある。生徒たちには、これらの例を示しながら、自分が選んだ和歌についてのツイートを考えてもらった。その際、字数は百四十文字以内であることを確認した。その数例を以下に示す。

A・あの人と会ったらなんか対応雑になった…ほんま腹立つ（一斗）  
（高二女子）

・もうええて（泣）ホンマは会いたいのに…

・こんなんやったら初めっから知り合わなかったらよかったわ。俺の何があかんかったんやろ…

（高二男子）

・僕は君に会って駄目になった。まったく我ながら完膚なきまでに自らの愚かさを、愚かすぎるほどに愚かしい僕という存在を実感してしまった。それだけは先ずもって間違いない事実なんだ。（高二男子）

C・まじで今死にそうやけど、あの世に思いで持つていきたいし、もう一度だけ会いたい。いい。

（高二女子）

・私はもうすぐ死んでしまうけれど、死ぬ前にもう一度だけ会いたい。最期にもう一度だけ会ってくれば、私はそれで満足だから。（高二女子）

・死ぬ準備もできたし、会うための予定もあけたし、思い出づくる準備もできた。あとは彼氏をつくるだけ。（高二女子）

D・今まで一緒に寝てたからわからなかったけど、

・ぼっちで寝るのはめっちゃさみしいし、めっちゃ長く感じる…（高二女子）

E・私のこと全然見てくれへんくてむかつくけど、なんか泣けてくる。（高二女子）

・私を振ったあの人のことよりも、振られた自分に悔しい！！（高二女子）

生徒たちの作成したツイートを概観したとき、そのほとんどが作品の世界を説明しようというもののよりも、作者の心情を述べようとしたのであった。このことは、生徒たちが和歌で表現された作者の心情を追体験しようとしていることを示している。生徒たちは、④の問いで答えたことを踏まえ、さらに作者の心情に迫ろうとしているのである。このことが古典的教育においてどれだけ効果があるかはわからないが、三十一文字で編まれた和歌の世界や作者の心情に、生徒たちが迫る手段となることは明らかである。

最初に現代の高校教育において、「国語ワーキンググループにおける審議取りまとめ」の「現行学習指導要領

の成果と課題」の中で「古典に対する学習意欲が低いこと」が課題となっていることを述べた。この「百人一首」を通して作品世界や作者の心情に迫ろうとする実践は、先に示した現代短歌の「歌物語」化同様、文学作品の世界に迫るひとつの手段になるとともに、「古典離れ」に対する効果的な対策にもなるのではないだろうか。

そして、こうした取り組みを行う際には、「国語ワーキンググループにおける審議取りまとめ」の「学習・指導の充実や教材の充実」中の「教材の在り方」において、

○高等学校の科目構成の見直しに応じて、それぞれの科目の趣旨が実現されるよう、教材の在り方を検討することが求められる。本ワーキンググループにおいては、特に「言語文化（仮称）」は、古典と近現代の文章の両方を教材として活用しながら我が国の言語文化への理解を図る科目とすることや、絵巻物のような絵画的資料が「言語文化（仮称）」や「古典探究（仮称）」において読む対象となり得ることについて指摘がなされている<sup>8)</sup>。

と述べられているように、「教材」の選択ということが重要な問題になってくるだろう。教科書の定番教材を「読む」作業はもちろん重要であるが、先に示した現代

短歌や「百人一首」のように、より生徒が取り組みやすい教材を選択することも必要になってくるはずである。

#### 注

(1) 教育課程部会「国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告）」（平成二八年八月二六日）

(2) 注(1)に同じ。

(3) 注(1)に同じ。

(4) 「高校古典教育における和歌の指導―近現代短歌からのアプローチ―」『文藝論叢』第八八号・大谷大学文藝学会 二〇一七年三月

(5) 「歌物語」の創作においては、四〇〇字詰め原稿用紙一―三枚程度で、その短歌が詠まれた背景の物語化を課題にした。

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」中の「各教科・科目等の内容の見直し（国語）」（平成二八年八月二六日）では、

選択科目「文学国語（仮称）」は、小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景、表現の仕方等を読み味わい評価するとともに、それらの創作に関わる能力を育成する科目として、主として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する。

と、「文学国語（仮称）」では「創作に関わる能力」の育

成が課題となっている。

また、「和歌の散文化」については、小笠原千里氏が実践報告をしておられる。「生徒の古典への興味関心・意欲を高める取組―和歌の散文化（翻案）を興して―」

（『日本語学』一九一三・二〇一年一月）。

さらに、『高等学校学習指導要領解説 国語編』（平成二二年六月・文部科学省）には、

「古典を現代の物語に書き換え」る過程では、古典の言葉と現代の言葉との関係を意識したり、古典の書き手や文章中の人々と、現代の人々との共通点や相違点を考えたりすることができると。それが、人間社会、自然などに対する様々な時代の人々のものになる。我が国の言語文化においては、しばしばこうした翻案が新しい言語文化の担い手として機能してきた。□承文芸だけでなく、和歌の本歌取りや謡曲などもまたその産物といえる。

とあり、翻案が古典性の理解につながるということが述べられている。

## （6）注（1）に同じ。

また、「観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生」（栗木京子）を「歌物語」化した作品を挙げる。

私の好きは「それでもいいから好き」の「好き」だ。電車で隣に座っている彼の横顔を見てそう思った。彼は私のことを好きでもないのに水族館に連れ

て行ってくれるそうだ。彼はそういう人だ。乗り換えをする電車を調べてくれているらしい。「大阪で乗り換えるんやって」「そうなん、調べてくれてありがとう。」会話は少しだけ。それでも私はこの時間が幸せだ。大阪に着いた。乗り換えをする途中に自販機で彼が足を止めた。「何か飲みたい？」「サイダー」サイダーを買ってくれた。「先に飲んでもいい？」「いいよ。」サイダーを飲んで動く彼の喉ぼけが愛おしい。「はい。」「ありがとう。」彼が口をつけたサイダーを受け取った。ああ、こんなことドキドキする。でも、きつと彼からしたら普通のことなのだろう。切ない気持ちのまま彼の後ろをついて歩いて、水族館に向かう電車に乗り換える。隣に座る。周りからは普通のカップルに見えているのかなと考えると少しうれしい。「ねえ、水族館好き？」「彼に聞いてみた。「好きだよ。」私に向けた「好き」ではないことはわかっていても胸がキュツとした。「そっか、よかった。」水族館前に電車は着いて、駅から少し歩いた。歩いているとき彼が私の方をみて「水族館好きなん？」と聞いてきた。あなたと行けるならどこでも好きだけど、と思いつながら「うん、好き。」と一言伝えた。これで彼も私みたいに胸がキュツとなればいいな。それから、水族館に着き、チケットを買って、水族館に入った。会話は動物や魚のことばかりになった。私は動物や魚のことよりもあなたのことが知りたい。手をつなぎたい。大好

きな水族館なのに動物や魚に集中できない。私の一番好きな大水槽の前のベンチに座り、大好きな場所に大好きな人といれてこんな幸せでいいのかと思う。何を話したらいいのかわからない。でも、会話がなくても幸せだった。「満足した？次クラゲがいるけど行く？」「もうちょっと、もうちょっと座っていたい。」もう一時間座っているのに、会話が少ないのに、彼は優しく「わかった。」と答えて一緒に水槽を見てくれた。二十分程水槽を見て、「ありがたい、満足した。」と言った。「じゃあ、次行こうか。」と、彼は立ち上がった。立ち上がった彼を見上げると彼は私にキスをした。彼は放心状態の私の手をひいて、クラゲのいるコーナーに向かった。このコーナーで終わりだと思ったら寂しくなった。帰りたくなかった。でも一通り見終わると水族館の外に出てしまった。水族館の前には観覧車がある。私は帰りたくない一心で彼の手を引っ張って、観覧車に乗りに行く。「どうしたん、観覧車乗るん？」と彼はびっくりしたように言った。「そう、観覧車に乗るの、私帰りたくないの。」そう言っただけで私は彼を半無理やり観覧車に乗せた。向かい合せて座っているの、どこを見たらいいのかわからない。「えっと、ごめんね。無理やり乗せちゃって。」「ううん、いいよ。少しびっくりしたけど。」どうしてあの時キスしたの？と言いたかったけどこわくてどうしても口から言葉が出てこない。もうすぐ頂上なのに無

言のままであった。申し訳ない気持ちになった。頂上にさしかかるとき、彼が隣に座ってきて「これから一緒にいてくれる？」と言った。彼は誰にでも簡単にこういうことを言う人だから素直に受け取れなかった。けれども、それでもやっぱりうれしかった。うれしいのか悲しいのか何かわからないけど涙があふれてきた。私は涙を流しながらうなずいた。誰にでも言っているかもしれない。でも、それでもよかった。私の好きは「それでもいいから好き」の好きだから。聞きたいことが聞けなかったけれど、もつと聞きたいことが聞けた。あなたにとっては今日だけの思い出かもしれないけれど、私はこの思い出でこれからも生きていける。このまま、観覧車が止まらなければいいのに。私の想いが溢れた。「好き。」

この短歌を歌物語化した作品は、このように片思いの心情を切実に描いたものが多かったが、そのうちのいくつかが物語の舞台を大阪にある海遊館に設定しているのが印象的であった。

(7) Twitter「百人一首bot」

(<https://twitter.com/onhundreqpoems>) による。

(8) 注(1)に同じ。

(本学准教授)